

# 「聖地」館山カップル応援

## 若手市職員企画 アプリで情報発信

プロポーズにふさわしいロマンチックな場所として今年7月、NPOが認定する「恋人の聖地」に館山市が選ばれたのを受け、若手市職員のプロジェクトチーム（PT）がまとめた「幸せを願うカップル応援事業」に予算がついた。20日にキックオフイベントとして交流拠点「渚の駅たてやま」でグッズなどを配る。

（笹川実）

たいと、役所内でPT参加者を募集。特に力を入れる聖地スポットとして、①洲崎灯台②城山公園展望エリア③館山夕日棧橋——の3

か所を定めた。応募した8人からなる平均30歳代の「館山創生PT」は夏から検討を始めて事業案をまとめ上げ、このほど地方創生交付金から約100万円が予算化された。

計画では、3か所の聖地に公式銘板を設置。聖地情報をウェブアプリで発信し、利用者は協力店で特典を受けられる。花や3聖地をデザインしたオリジナル婚姻届を作り、希望すれば21日から利用できる。また、洲崎灯台では管理者の千葉海上保安部にかけ合い、「恋人の絵馬」を指定場所に結びつけられるようにしたい考え。

後藤淳PT代表（都市計画課）は「応援事業をさらに充実させたい。今後も横の連携で、恋人の聖地事業以外のニッチ（隙間）な課題にも取り組みたい」と話す。

市は第2、第3のPTを募集し、管理職の意識改革も促していく。金丸謙一市長は「カップルを応援するとともに、役所の縦割り構造に風穴を開け、人材を養成したい」と話している。



館山市の「恋人の聖地」スポットの一つ、洲崎灯台からの夕日（館山市提供）

聖地の認定は、デザイナーの桂由美さんや女優の菊川怜さんらを審査員に、静岡市のNPO法人「地域活性化支援センター」が2006年から開始。全国130か所以上が認定され、県内では富津市などに続いて館山市が5番目に認定された。館山湾越しの富士山と夕日の絶景が、デートやプロポーズのロケーションにふさわしいと評価された。

市はロマンチックな自然の舞台装置を、市職員の若い感覚を生かしてカップルの応援や観光振興につなげ